

令和6年の大阪府内の職場における熱中症の発生状況

令和6年は記録的な猛暑となり、暑さへの順化が十分できておらず、気温が上がり始めた7月初旬から熱中症の発生件数が増加した。

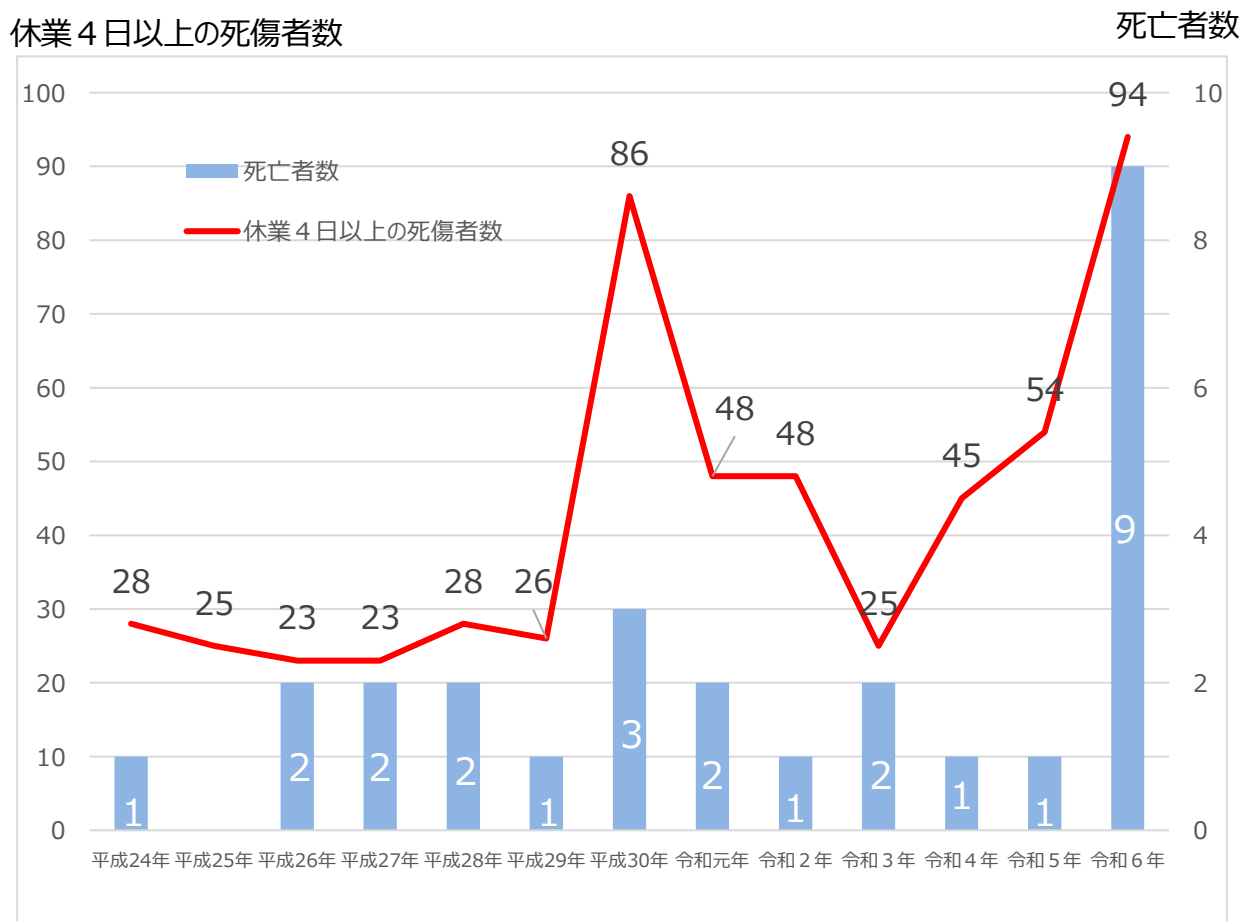
また、熱中症全体の40%以上となる39件は7月下旬及び8月上旬に発生した。

令和6年の屋外の気温、WBGT値と休業4日以上の中症の発生状況について、7月以降で熱中症が発生した日についてはほぼ、最高気温が31℃以上、WBGT値が28℃以上となっており、平均気温についても31℃近く、WBGT値も28℃近くとなっていた。(観測地点：大阪市)

体調不良者をすぐに病院に搬送するという「緊急時の措置」が適切にとられていなかったと考えられる事案も複数発生している。

なお、全国の熱中症による死亡を含む休業4日以上の中症者は1,195人、うち死亡者は30人となっている(令和7年1月7日現在速報値)。

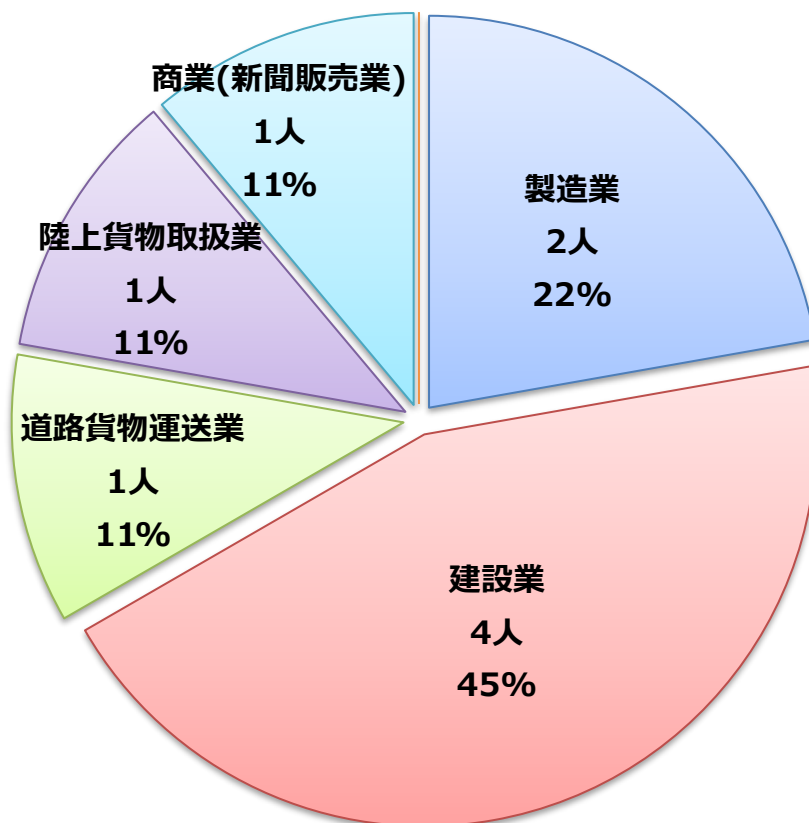
- 1 熱中症による休業4日以上の中症者は、前年より40人増加し94人であった。また、そのうち死亡者は9人で、前年より8人増加した。



2 【死亡災害】

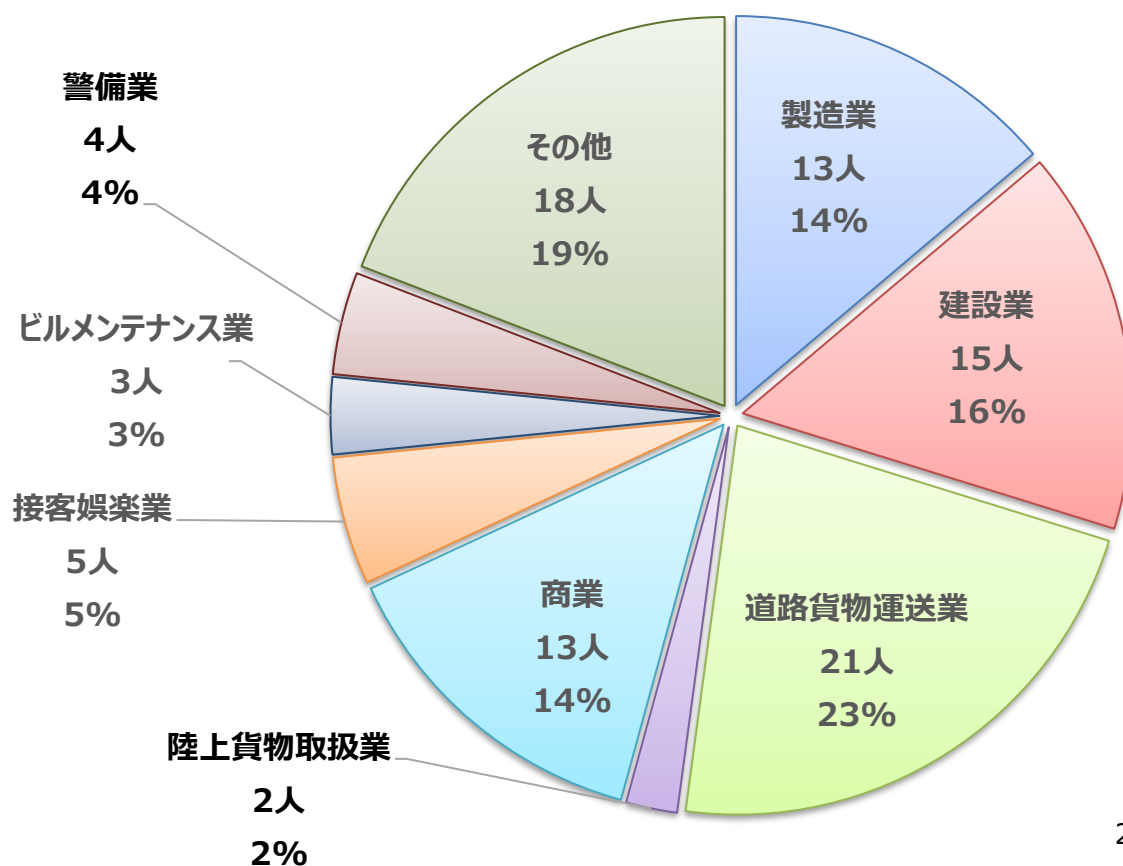
業種別では、製造業 2 人、建設業 4 人、道路貨物運送業 1 人、陸上貨物取扱業 1 人、商業（新聞販売業） 1 人となっている。

全国の職場における熱中症による死亡災害は 30 人で、そのうち 3 割にあたる 9 人が大阪府内の職場で発生した。

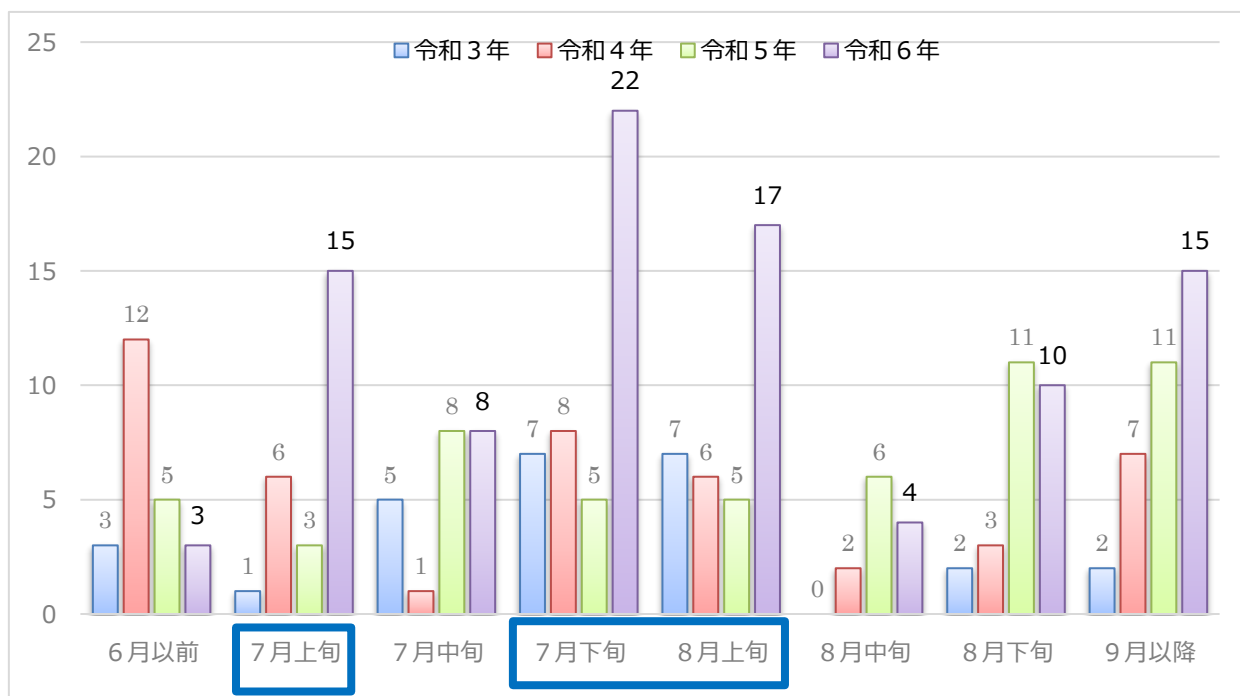


3 【休業 4 日以上の中熱症】

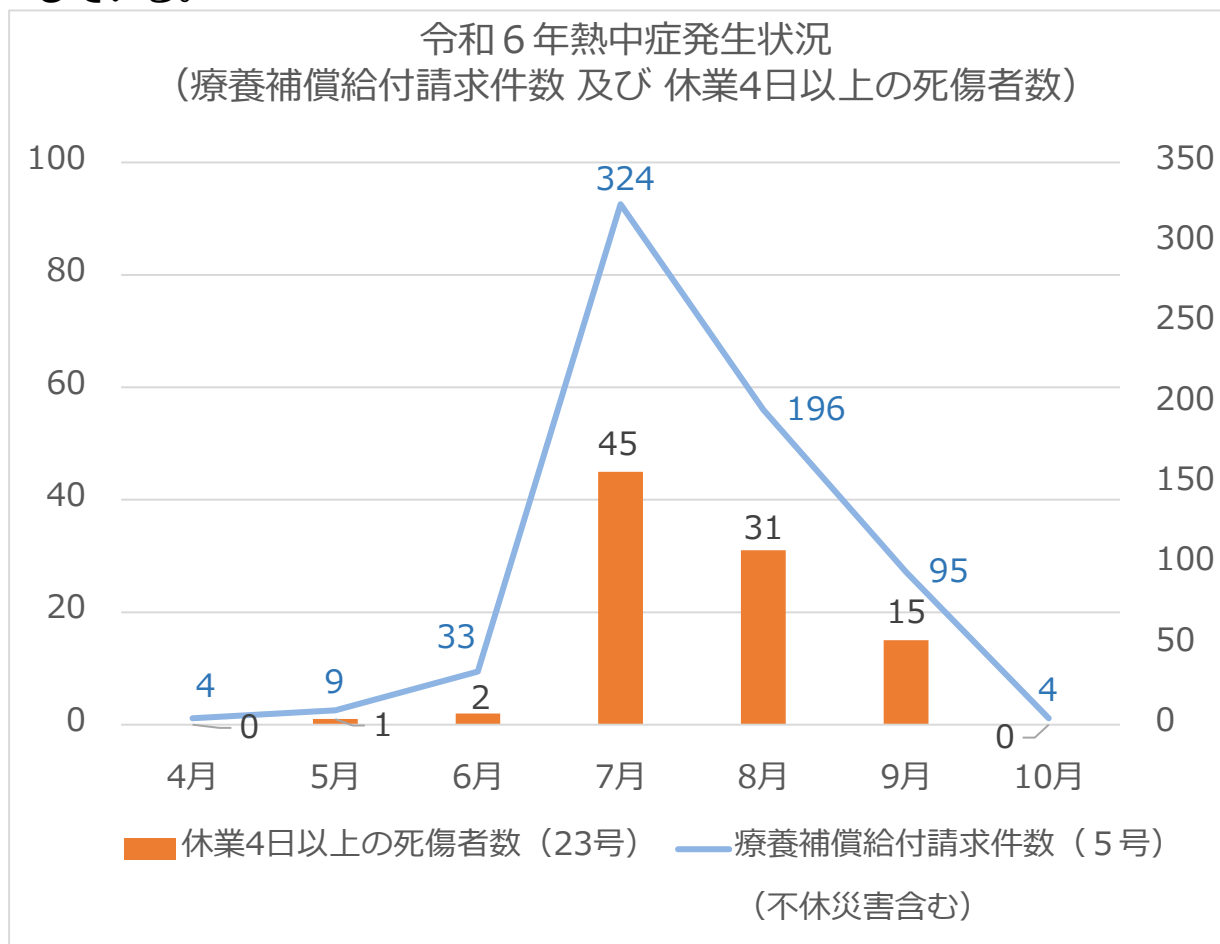
業種別では、製造業 13 人、建設業 15 人、道路貨物運送業 21 人、陸上貨物取扱業 2 人、商業 13 人、接客娯楽業 5 人、警備業 4 人、ビルメンテナンス業 3 人となっている。



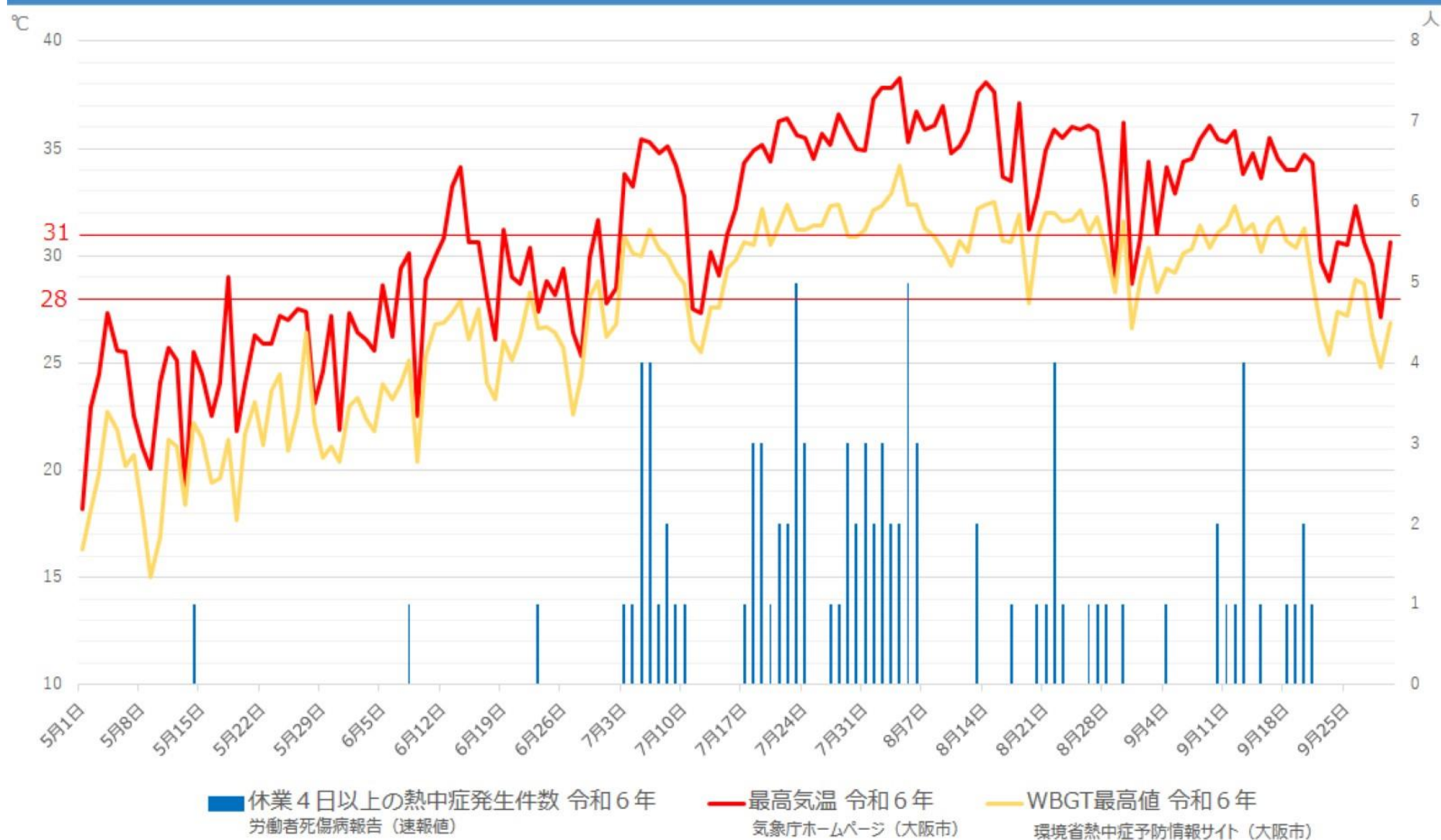
- 4 令和6年の発生時期は、7月初旬から増加し、全体の40%が7月下旬から8月上旬に発生している。



- 5 休業4日以上の中熱症は5月から9月の5か月間に発生しているが、休業3日以下（不休業を含む）の中熱症は4月から10月の7か月間に発生している。



日ごとの最高気温、WBGT最高値及び熱中症の発生件数 (令和6年5月1日～9月30日)



日ごとの平均気温、WBGT平均値及び熱中症の発生件数 (令和6年5月1日～9月30日)

